


事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【 I, V 】
2 実施対象者	常総市立水海道中学校 1年生4クラス, 2年生3クラス 合計230人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 総合的な学習の時間・保健体育 )</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピック・パラリンピックやスポーツの価値を学び、2020 東京オリンピック・パラリンピックへの興味や関心を高める。</li> <li>・オリンピックを目指すアスリートとの交流により、努力や目標を持つことの大切さを学び、日常生活や学習に生かそうとする態度を育てる。</li> </ul>
5 取組内容	<p>1 事前学習</p> <p>(1) 1月 1, 2年生徒 総合的な学習の時間・保健体育 1 時間          ○テーマ「オリンピック・パラリンピックを知ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらい オリンピック・パラリンピックの意義や価値、歴史について学び、理解を深める。</li> <li>・教育プログラム「オリンピック・パラリンピック学習読本（中学校編）」の資料をもとに校長が作成したプレゼンによる学習</li> </ul> <p>(2) オリンピック・パラリンピックコーナーの設置・資料の掲示と関連図書の展示</p>  <p>2 オリンピック・パラリンピック推進事業 1, 2年生 総合2時間扱い          「オリンピック・パラリンピックについてアスリートから学ぼう」</p> <p>(1) 日時 平成31年2月5日(火) 午後2時から4時</p> <p>(2) 会場 県立水海道第二高等学校体育館(借用)</p> <p>(3) 講師 藤本 元 筑波大学体育系 助教          日本ハンドボール協会 参事 元ジャパン女子コーチ          強化・育成戦略委員会委員, 指導委員会委員長          アスリート 世界学生選手権に出場(銅メダルを獲得)          田中 圭 筑波大学大学院体育学専攻 1年          福井県出身 昨年度ハンガリープロ1部でプレー          森永 浩壽 筑波大学体育専門学群 4年          茨城県つくば市出身 学生リーグ MVP 選手          山口 勇樹 筑波大学体育専門学群 3年          熊本県出身, 日本代表候補選手</p>

#### (4) 内容

##### ① 講師による講話

「ハンドボールの魅力」について 世界のハンドボール  
トップアスリートの現状



##### ② 実技 ○参加全生徒による交流ゲーム・ボールを使ったゲーム ○ハンドボール部員と学生のミックスゲーム



##### ③ アスリートによる模範プレー・デモンストレーション



##### ④ アスリートからの体験談・質疑応答

プレーヤーとしての喜び、苦悩、学びについて



本事業の実施は、筑波大学アスレチック部門事業と連携し、講師とアスリートの派遣を依頼した。講師の藤本先生による、豊富な経験談と、ハンドボールやスポーツの素晴らしさ・魅力についての講話を聞いた。講話は、映像と共に日本や世界のトッププレーやトップアスリートについての具体的な紹介を含んだ、生徒にも理解しやすい内容であった。

また、地元筑波大学の学生によるハイレベルなデモンストレーションや、中学生と一緒にチームを組んでのゲーム、交流活動を通して臨場感あ

	<p>られる実践となった。3人の大学生から、選手生活の喜び・苦悩から学んだことや体験談からメッセージ性の高い話を聞く時間が設定できた。</p> <p>3 事後指導</p> <p>① 各学級 作文「アスリートから学んだこと」</p> <p>② 保健体育 「スポーツの価値とフェアプレー」について学習</p> <p>③ 学級巡回図書「オリンピック・パラリンピック大百科」5冊</p>
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>常総市は、前回の茨城国体に引き続き、本年の茨城国体ハンドボール競技の開催地でもあり、市民のハンドボールへの関心が高い。特に、地元の県立水海道第二高等学校女子ハンドボール部は、全国優勝をはじめ全国トップレベルの成績を残していることから、生徒はハンドボールを身近なスポーツとして捉えている。本事業を実施することで、生徒のハンドボールへの更なる興味・関心が高まり、理解が深まっただけでなく、トップアスリートの模範プレーや実技などから、スポーツの魅力について体感することができた。</li> <li>大学生の体験談「スポーツを通して学んだこと」「勉強とスポーツの両立」、「努力から得られる喜び」から、努力することやチームプレーの尊さや目標を持つことの大切さ、支えてくれる人への感謝の気持ちなどを学ぶ貴重な機会となった。</li> <li>国内外で活躍するアスリートを身近に感じることで、1年後に迫ってきた2020年東京オリンピック・パラリンピックへの生徒の興味、関心をさらに高めることができた。</li> </ul>
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業でも体験している身近なハンドボール競技のトップアスリートを招聘して実践したことで、生徒がより高い関心をもって講話や交流活動に取り組むことを意図した。</li> <li>ハンドボール競技への理解を契機として、2019年常総市で開催される茨城国体を含め、2020年東京オリンピック・パラリンピックの他の実施競技への理解や関心を広げる契機となるようにした。</li> <li>競技選手への理解や関心を深め、応援やおもてなしの心を育成するために身近な地元の大学生を招いた。</li> <li>講師依頼について筑波大学との連携を図り、筑波大学アスレチックデパートメント事業を活用したことで実施の円滑化が図れた。</li> </ul>
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師依頼について：当初予定した講師とのスケジュール調整が困難となり、実施計画の修正や実施の運営に大きく影響した。</li> <li>実施場所について：本校の体育館が改修工事に入っていたことから他施設での実施を検討する中で生徒の移動方法の検討や安全面での配慮が必要となった。</li> <li>実施時間の確保について：生徒の学びを確かなものにするのが重要であるが、学校の年間計画の中での位置づけや事前、事後の学習時間の十分な確保が困難であった。</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>常総市で開催される茨城国体ハンドボール競技を含めオリンピック・パラリンピックの応援する姿勢や、競技者を受け入れる立場としてのおもてなしの心を育成するための方策を図り、ハンドボール競技だけでなく、生徒のスポーツ全般への興味、関心を高める。</li> <li>オリンピック・パラリンピックの意義や価値、フェアプレーの精神などについて、保健体育や総合的な学習の時間のみならず、道徳科や部活動、特別活動などと関連付けた内容で実施したい。</li> </ul>